

## 第1回安佐南区まちづくり懇談会 会議要旨

- 1 開催日時 平成31年（2019年）2月20日（水） 午後6時30分～8時30分
- 2 開催場所 安佐南区役所本館4階講堂
- 3 出席者
  - (1) 委員（15人中13人出席）  
阿佐委員、宅見委員、竹内委員、谷口委員、寺尾委員、内藤委員、林委員、檜山委員、藤井委員、松井委員、村田委員、森崎委員、渡部委員
  - (2) 安佐南区役所  
安佐南区長、副区長、厚生部長、建設部長、地域起こし推進課長、地域起こし推進課職員
  - (3) 企画総務局  
政策企画課総合計画担当課長、政策企画課職員
- 4 次第
  - (1) 開会
  - (2) 区長あいさつ
  - (3) 委員・事務局紹介
  - (4) 議事
    - ア 座長・副座長の選出
    - イ 広島市総合計画審議会の審議状況等について
    - ウ 安佐南区まちづくり懇談会の概要について
    - エ 安佐南区の現況と課題について
  - (5) 講演「安佐南区のまちづくりについて」
  - (6) 閉会
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 会議資料
  - (1) 議事資料
    - 議事資料1 広島市総合計画審議会の審議状況について
    - 議事資料2 安佐南区まちづくり懇談会の概要について
    - 議事資料3 安佐南区の現況と課題について
  - (2) 参考資料
    - 参考資料1 安佐南区まちづくり懇談会開催要綱
    - 参考資料2 安佐南区まちづくり懇談会の公開に関する取扱要領 及び 傍聴要領
    - 参考資料3 広島市が直面する中核課題に対する対応策の検討について
    - 参考資料4 第5次広島市基本計画に基づく安佐南区の計画ガイド
    - 参考資料5 講演「安佐南区のまちづくりについて」資料

## 〔開会〕

### 〔区長あいさつ〕

#### ○ 品川安佐南区長

第1回の安佐南地区まちづくり懇談会の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

皆様方には、日頃より行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。また、この度は、この懇談会を開催するに当たり、大変お忙しい中、本懇談会の委員を快くお引き受けいただき、誠にありがとうございます。

さて、広島市の施策の大綱を総合的かつ体系的に定めております、現行の第5次広島市基本計画は、その計画期間を平成21年度から平成32年度までとしております。この現行の計画の期間中に、本市では、2度の記録的な豪雨災害に見舞われ、我々安佐南区も甚大な被害を受けたところでございます。こうした大災害を教訓として、防災のみならず、まちづくりを推進する上では、自助、共助、公助の適切な組み合わせの重要性というのはますます高まっております。

また、皆様御承知のとおり、安佐南区は、現在広島市の8地区の中でも、最多の人口、24万人強を占め、継続的に人口は増え続けていますが、国立社会保障・人口問題研究所によりますと、2030年度以降に人口が減少し始めるという推計がなされております。

次期総合計画の改定に当たりましては、こうした過去の教訓と将来の時代潮流をしっかりと見据えながら、区民の皆様方からの意見を幅広く聞き、そして、地域特性を生かした計画づくりに取り組んでいくことが肝要ではないかと思っております。

委員の皆様方におかれましては、こうした観点から、安佐南区のまちづくりの方向性をはじめとして、地域資源を生かした住民主体の取組、あるいはその取組を進める上での行政などの支援につきまして、それぞれの立場から御意見をいただくとともに、その実現に向けた具体的な施策をまとめますアクションプランの策定に向けまして、活発に議論していただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。

### 〔委員・事務局紹介〕

#### ○ 阿佐委員（安佐南区民生委員児童委員協議会 会長）

安佐南区では、民生委員が320人で活動しております。安佐南区が素晴らしくなるよう、皆様と一緒に進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

#### ○ 宅見委員（安佐南区身体障害者福祉協会連合会 会長）

身障協のメンバーは現在280名から290名、だんだん減ってきています。福祉の充実、平和のバロメーターであると認識して、さらなる充実を願っております。障害者の福祉に関して、立場上いろんな意見を申ささせていただければと思っております。よろしくお願ひします。

#### ○ 竹内委員（広島高速交通株式会社 代表取締役社長）

アストラムラインは、この8月20日で開業からちょうど25年を迎えることになります。新白島駅ができて以降、利用者も常に伸びてきており、経営的な改善を見込まれているところ

です。私共は交通事業者ですけれども、経営理念として、安全の輸送と、究極的には地域振興に貢献するというのを経営理念にしていますので、そういった観点から、この委員会に臨みたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○ 谷口委員（安佐南区青少年健全育成連絡協議会 会長）

地区・学区の青少協は26ありますが、その会長を務めております。よろしくお願いいたします。

○ 寺尾委員（安佐南区社会福祉協議会 会長）

社会福祉協議会も26学区に分かれており、それぞれが地域活動をしております。もちろん行政とも連携をとっておりますが、今の課題としては、非常に担い手が不足している。そうした中でも、地域活動をやらなければならないという状況の中にあります。要支援の高齢者の生活支援等が学区社協に今後期待されるという状況の中で取り組んでおりますが、なかなか担い手が不足しているというのが現状です。そういう中で、安佐南区のまちづくりについても協議に参加させていただきますが、皆様と力を合わせて、安佐南区が住みやすい、良い環境の地域になるように、私たちも努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○ 内藤委員（学区体育団体安佐南区連合会 会長）

安佐南区26学区の団体の連合会ということで会長を務めておりますけれども、安佐南区の中で生活されている皆様が健康で過ごしていただくために、学区団体の会長が協力をしながら頑張っているのではないかと思います。その中で、区の中で何ができるかという部分を考えながら、また会長として、今後のことも考えながらやっております。市のこういうまちづくりに参加させていただくということは非常にありがたいことですので、よろしくお願いいたします。

○ 林委員（毘沙門台学区社会福祉協議会 専務理事）

毘沙門台は、丘陵地を開発した団地で、2,700世帯、約7,000人の人口で、3つの町内会により構成されています。我々としては、毘沙門台に住んでみたいと言われるようなまちづくりをしなければいけないということで、課題も多く、世代も交代時期に差しかかっていますが、頑張っており組んでいます。よろしくお願いいたします。

○ 檜山委員（広島市農業協同組合 常務理事）

当組合の活動エリアは、南は似島から北は芸北までという広いエリアですが、本店はこの安佐南区の中筋にございます。そういった縁もあり、私もこの安佐南区で活動することが多いです。農業協同組合という立場で、生産者あるいは消費者の視点に立って安佐南区のまちづくりにお役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。

○ 藤井委員（ひろしま西風新都クラブ 会長）

ひろしま西風新都クラブの藤井と申します。西風新都、安佐南区から佐伯区にまたがる10地区の産業系用地に進出されました企業、現在91社で構成された団体でございます。よろしくお願いいたします。

○ **松井委員（広島経済大学経済学部教授）**

前回の基本計画改定での安佐南区まちづくり懇談会に引き続き、今回、委員に就任して、ふと考えました。10年前、寺尾委員と一緒にここに座らせていただいたとき還暦でした。それから10年経ち、今年70歳ということで、この10年間は、ずいぶん大変なことがいろいろあり、改めて思い起こしております。今回は、これから先の10年ということについて、皆様といろいろなお話をさせていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

○ **村田委員（安佐南区地域保健対策協議会 会長）**

安佐南区の地域保健対策協議会は、安佐南区の医師会と安佐薬剤師会、安佐歯科医師会と安佐南区行政が一緒になって協議会をつくっており、保健医療、介護に関わる様々な問題について協議を行っております。現在抱えている大きな課題は、在宅関連の問題であります。医療と介護の連携推進事業として、地域包括ケアシステムをつくっていくお手伝いをさせていただいております。まちづくりという点では、医療、介護といった観点でお手伝いできればと思いますので、よろしくお願いします。

○ **森崎委員（NPO法人e子育てセンター代表理事）**

2004年に活動を始めまして今年で15年になります。2011年には、NPO法人になり、今、安佐南区の祇園、佐東地区を中心に活動しております。活動の内容は、子育て支援、地域のお母様たち、小さいお子さんたちとその保護者の方たちが集うような広場、子育て支援拠点事業とありますが、広島市のほうから公募型ということで選定を受けて、今、祇園と佐東地区の2カ所で活動しております。地域の子育て活動をしてまいりましたので、そのようなことをまた皆様とお話できたらと思っています。よろしくお願いします。

○ **渡部委員（安佐南区女性団体連合会 会長）**

現在、安佐南区女性団体連合会会長をさせていただきまして3年目になります。それと、伴地域女性会で6年目の女性会会長をさせていただいております。思い起こせば、平成6年のアジア大会、ちょうど25年前になりますが、そのときに地域の小学校のPTAの役員をしております、いろいろな将来の話をしたのを思い出します。やはり5年先、10年先、20年先、この地域がどうなっているかというのを考えながら毎日を過ごすのも本当に大事なことなんだなと改めて思っております。よろしくお願いします。

○ **事務局自己紹介**

（省略）

〔座長・副座長の選出〕

○ **事務局**

それでは、議事に入らせていただきます。座長、副座長を選出していただくまでの間、事務局で議事を進めさせていただきます。

早速ですが、議事4(1)の「座長、副座長の選出」についてお諮りします。本懇談会の座長、副座長については、お手元の参考資料1「安佐南区まちづくり懇談会開催要綱」第4条第1項の規定により、委員の互選によって定める、としております。皆様の中で、座長、副座長に立候補される方、あるいは御推薦される方がいらっしゃいましたら、御発言をお願いします。

○ 阿佐委員

この審議会を円滑に進行させるためには、前回の懇談会をよく知っておられる方がいいのではないかと思います。そこで座長には、広島経済大学の松井教授、副座長には、安佐南区社会福祉協議会会長の寺尾会長をお勧めしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○ 事務局

ただいま阿佐委員から、座長は松井委員に、副座長は寺尾委員という御意見がありました、いかがでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○ 事務局

皆様の御賛同をいただきましたので、座長は松井委員に、副座長は寺尾委員にお願いしたいと存じます。

それでは、座長、副座長、前の席にお移りいただき、一言御挨拶をいただきたいと存じます。松井座長、お願いします。

○ 松井座長

座長ということで大役を仰せつかりました。先ほど申し上げましたこの10年は、大変な10年だったと思います。前回のまちづくり懇談会では、安佐南区の特色は「緑豊かな」ことだと思ってきましたが、その緑が私たちに牙をむく、ということもありました。また、この10年を過ぎますと、人口減少に転じるという過渡期の時代です。

そういうときに、これからこのまちをどうしていくか、ということの皆様と一緒に、本当に腹を割って話ができたら、と希望しております。皆様で本懇談会を盛り立てていただきますようお願いいたします。

○ 事務局

続きまして、寺尾副座長、お願いします。

○ 寺尾副座長

私が退職した頃はまだ定年も60歳でしたが、今は定年が随分延長されて、さっき申しましたように地域での担い手が70歳過ぎています。私は安学区の出身ですが、平成18年に安の花田植を復活させ、これまで続けて実施しています。しかし、13年間も同じスタッフが運営しており、特に力仕事などはしんどいという役員さんが多くなってきて、今後どうするかとい

うことを協議しています。担い手が非常に少なくなっている中で、担い手の確保が大きな課題になってきたと思います。

そのような社会の高齢化に伴う課題などを、各市のまちづくりの中に生かしていくということが必要だと思っています。安佐南区は一番活力がある区と私は思っており、やり方次第で今後も活力のある地域になるという期待もあるので、一生懸命皆様とともに努力して、安佐南区のまちづくりの指針をまとめていきたいと思っています。微力ですが、私も頑張らせていただきます。

○ **事務局**

どうもありがとうございました。それでは、これより松井座長に議事の進行をお願いしたいと思います。

○ **松井座長**

それでは、議事に入らせていただきます。

まずは、議事4(2)「広島市総合計画審議会の審議状況等について」です。

本議事は、現在、広島市総合計画改定の審議を進めている広島市総合計画審議会での審議状況等について、所管課の企画総務局政策企画課総合計画担当から説明をいただきます。

それでは、議事4(2)について、説明をお願いします。

○ **藤岡総合計画担当課長**

(配布資料により説明)

○ **松井座長**

ただいま説明いただいた議事4(2)について、何か御意見、御質問がありましたら、皆様お願いします。

○ **渡部委員**

「広島市が直面する中核課題」の「4 未来を担う子どもを取り巻く環境の変化への対応」(P8)というところで、最後に「きめ細かな支援などが必要」ありますが、具体的にどのようなことを考えておられますか。

○ **藤岡総合計画担当課長**

参考資料3「広島市が直面する中核課題に対する対応策の検討について」のP18をご覧ください。表の右側に「対応策の方向性」に記載しているように、妊娠、出産時には、母子の健康、出産後は子育てに関する相談支援、保育期は、保育園の待機児童の解消に向けて保育園の整備を図っていきたくと考えています。

また、子どもの医療費の助成を増額しましたが、そういったことを引き続き行っていきたくと考えています。就学した後については、学校教育を引き続き行うとともに、児童館の整備のような放課後の子育てに関する支援を行っていく等を掲げております。

○ 渡部委員

最近、若いお母さん方は本当に忙しくて、私たちの時代と違って、いろいろな問題を持ちながら頑張って子育てをしているのを見て感心する反面、社会をすごくにぎわす悲惨な事件もあるので、そのような「子育て」のところを考えていきたいと思いました。

○ 松井座長

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。  
無いようであれば、次の議事に移りたいと思います。

○ 松井座長

議事4(3)「安佐南区まちづくり懇談会の概要について」事務局から説明をお願いします。

○ 与倉地域起こし推進課長

(配布資料により説明)

○ 松井座長

今、議事4(3)について説明いただきましたが、時間の都合もあるので、この次に、議事4(4)「安佐南区の現況と課題について」を事務局から説明いただいた後に、御質問等ありましたらお受けをさせていただきたいと思っております。

それでは、引き続き議事4(4)について説明をお願いします。

○ 与倉地域起こし推進課長

(配布資料により説明)

○ 松井座長

先ほどの議事4(3)及び議事4(4)について、御意見、御質問がありましたらお願いします。

[「無し」の声あり]

○ 松井座長

無いようでしたら、このあたりで少し休憩とし、その後に次の議題に入りたいと思います。

[休憩]

[講演「安佐南区のまちづくりについて」]

○ 松井座長

皆様には、安佐南区の各組織の代表として、それぞれのお立場から発言をいただくとともに、今回のまちづくり懇談会について、共通の土俵に立ちたいというのがこの講演の目的です。

今、少子化の時代が来たとか、さまざまな形で社会の変化が言われていることは、決してこの地域だけの事情ではありません。先進諸国においては、どこもが同じような事情であるかと思えます。

まず世界史を振り返ってみます。

現生人類が生まれたのが20万年前、アフリカ大陸でミトコンドリア・イブから生まれたとしましたら、日本列島に来たのは3万年前ですから、17万年かかって、ようやくここへ辿り着くことができた、ということです。とても長い時間でした。それから、1900年には世界人口が16億人であったのが、2018年には、75億人に飛躍的に増加しています。わずか100年の間に人口は大きく増えているということです。

しかし、ここで確認をしたいことがあります。現代は近代社会であるということは、皆様もご存知のとおりですが、ではこの後、どういう時代が来るのか、という点については、まだ明確に定義されていません。15世紀、16世紀ぐらいに西欧文明の爆発がありましたが、その時代は、近代化（「モダン」）と言われていますが、現代は「ポストモダン」、つまり中世の時代の後に来た時代と称されるだけであって、実は、人類は、まだ未来に手が届いていません。産業革命が起こり、情報改革が起こる中で、次にどんな社会が来るのかということについては、不透明なままです。

ところで、情報社会に入って、私たちが心配をしているのは、今回の総合計画等でも言われているように、町内会・自治会など社会の中間項としての地域コミュニティがどんどん希薄化していることです。そこで、もう一度地域コミュニティを再興しようと言われていますが、そうしていこうと我々が考える基本的な引き金は何といたしても災害の多発です。喫緊の課題として、地域コミュニティをしっかりとしたものにしていく仕組みとえば、地域の自主防災会であり、これを確立していかない限り、これからの災害多発社会において、共助はあり得ず、お互いに命を救えないということにもなりかねません。だから、我々も地域コミュニティの再興ということには、非常に力を入れて進めていかなければならないと考えています。

さらに、先ほどの近現代史の話に関連することです。農業共同体というのは地縁・血縁によるものでしたが、1950年前後の自由主義旋風の中で若者たちがどんどん、地域に縛り付けられていた血縁というものを断ち切っていく、人間関係が希薄化していくということがこの国の近代化だという発想になっていきます。それとともに、重工業により都市が発展していきましたから、いわゆる労働力として農村から町に出てきた人たちは、農村という共同体から会社という共同体に身を置くという構図が進んでいきました。そういう意味では、地縁、血縁から「社縁」に移っただけだとも言えます。そうして今や、農村から町へ出ていた方々が、60、65、70歳になって、老後を過ごすために地域へ帰ってき始めたのですが、自然災害の多発とともに、少子高齢社会化もあって、自分たちが住んでいく社会を造り直さなければなりません。

「都会」とは、人々を惹きつける場所ですが、「まち」は、人々が帰ってくる場所であり、これが非常に重要です。なぜかという、私たちは、先に述べたように20世紀の後半、ふるさとを失ったかもしれないからです。

未来展望のような話になってきますが、確実に言えることの一つは、ものにあふれる消費生活というものから脱出していかなければいけない、ということです。統計をとってみますと、



1974年から、ものの豊かさと、心の豊かさが、国民全体の意識として逆転しています。

2つ目は自然との関係です。4年半前のあの土砂災害もそうですが、私たちは果たして、人口の増加、社会の発展を掲げて、自然とどう共生してきたか。安佐南区として「緑豊かな」ということを誇りに思ってきたけれども、20世紀の後半の10年ごとの写真を見ると、開発がすすみ、どんどん山の上へ住宅が広がっています。

最後は、情報化の次に来る社会についてです。これから10年間の未来計画を考え、そして、その先の未来計画につなげていく中で、人類が忘れ始めている「かけがえのないもの（至高）」という言葉の思い出したい。「かけがえのないもの」の一例として、インディオとムラサキガイの話があります。インディオの若者は、結婚したい女性に贈るための布を紫色に染めため1年かけてムラサキガイを探して、そのムラサキガイから、紫色のちょっとしたエキスを分けてもらうんです。そして、それがようやくたまったら愛する人と一緒になれる。しかし、この話に現代の日本人を当てはめるとどうなるか。現代の日本人であれば、同じムラサキガイの紫色のエキスをとるために貝を石で叩き潰します。この発想こそ、20世紀の後半の私たちの大失敗、もっといえば、戦争の世紀というか、憎しみとか復讐とかそういう思想であり、いわば人類にとって苦難の時代であり、それを乗り越えていかなければならないのが今だということです。

次に、ボーリング・アローンの話をお聞きになった方がいらっしゃるかもしれません。有名な社会関係資本（ソーシャルキャピタル）の基本書です。信頼と互酬性の2つがしっかり重なり合って、ネットワークが強化されれば、豊かな社会になると言い出したのが、この『孤独なボウリング』という本です。この本に何が書いてあるかということ、アメリカでは、老人になっても、ボウリングは老人たちにとって大きな一つの余暇であり、ボウリング場にひとりでなくても、過去には、他の見知らぬ誰かとでも一緒に競技ができた。それが、いまやアメリカでも日本と同じように、どんどん人のつながりがなくなってしまい、孤独な老人になって、ひとりぼっちでボウリングをする社会になっています。こんな社会のままでいいのでしょうか。なぜならば、統計上は、市民社会がどんどんと活性化していけば、刑法犯は減少し、合計特殊出生率は増加する。こうした意味でも、私たちは、もう一度、相互信頼とネットワークを築き上げていくこと、そして、お互いがお互いのことを思いやることこそが非常に重要であると考えています。また、子どもと高齢者の問題がなぜ重要なのかということ、両方とも生産年齢ではないということもありますが、地域への土着性が高い、地域への関わりが非常に大きいからです。先ほどの安佐南区の統計では、2040年代、2050年代には高齢者が全体の3分の1ですが、この国としては、もう10年ぐらいうれば、65歳以上が全体の3分の1になる時代が訪れるといわれています。そして、都会の会社から農村へ帰ってきた、例えば、団塊の世代の人たちはこれからどうやって余生を過ごすのでしょうか。80歳代にまで男性ですら平均寿命が伸びています。そうすると、これから先の生き方の問題という意味でも、地域のあり方が重要であり、老いをどう生きるかということはしっかり考えなければならぬところだと思います。65歳からだったら20年ほども生活することになります。その間、どうやって生き生きとした人生を過ごすのかということ、地域と自分との関係性を見直すことが必要ですが、このあたりの認識が足りていません。国としても、65歳なり70歳で定年になっていって、そこから後についての生活設計だとか人生設計についての方針というのがほとんど出ていません。これは、

この国の大きな間違いの一つのような気がします。だから、今、我々がつくろうとしているまちづくりの中で一番重要なことの一つは、そのことなんです。これから先の20年どう生きるか。これは、本当は二十代から私たちが持たなきゃいけない重要なテーマなのです。それを放ったらかしてきて、65歳で「地域に帰れ」と放り出されてから考えても、もうそのときは遅いかもかもしれません。

さて、人のつながりを促進する地域におけるネットワークをつくっていくためのポイントは何かというと、基本的には「挨拶」なんです。挨拶の大切さというのが、昔から言われながら、最近特に挨拶をしない子ども、若者たちというのが多い。それともう一つは、地域の情報をみんなで共有することです。このことに、少し気持ちを置いておいていただきたいと思います。

日本集落における社会構造、長による上下関係だったり、掟やしきたりだったり、排他主義であったり、村八分であったり、考え方は、善か悪かの二極性であったり、それから、共有意識が強くプライバシーの概念がなかったりという、典型的な日本の集落における社会構造はまだ根強く生きていて、それに対しどんな注意がなされているかという、これからの望ましい関係性は「対等で軽やか」という言葉だけです。そう簡単でないことをしっかり考えなきゃいけません。

それから、我々が高齢社会に入っていくのはもちろんですが、そのときにどれほど地域コミュニティにおいてそれを支えてくれる人材を育成してきたかが問われます。ビジネス社会の中では「後継者を育成しなさい」といつも言われています。なぜ地域コミュニティでは、「いやいや、後継者がいないから、自分がやっている。」というような話になってしまうか。私たち自身が、自己認識と自己中心的な意識を変えないと、未来を支える若者たちに果たして地域コミュニティの重要性の意識がどこまで育つでしょうか。

「おわりに」ということで「自治会と自主防との関係」です。まず、この地域における町内会・自治会の加入率が約50%ということですが、地域コミュニティの役割の一つとして、災害が起こる、Jアラートが鳴る、そういうときに、助け合わなければならないのは地域に住まう人たち全員です。いわば「一人も見逃さない」精神でなければなりません。1945年までは、法律上これが、町内会・自治会や隣組という形で決まっていたのですが、今は自由参加になっていますから、町内会・自治会に加入していない地域住民には、回覧板の情報すら回らない。町内会・自治会の加入率を増や努力が必要です。例えば、マンションのオーナーは、マンションを販売するときには、その地域の町内会・自治会に入ることを、契約条項の中に入れていくことも必要かもしれません。町内会・自治会の加入者を増やしていけば、地域全体での共助ということが当たり前の地域コミュニティになっていきます。一方、町内会・自治会と自主防災組織が二重になっており、その2つがうまく役割分担できていないのが現状です。この整理をうまくしていかないとはいけません。自主防災組織というのは、小さくなくてはいけない。新しい開発地でどんどん自主防災組織ができるというようなことがどんどん出来ていかないと、実際に、広域・激甚災害時発生時の共助が間に合わないんです。

続いて、「行政からの伝言」。どういうことかということ、平成30年7月豪雨を踏まえた、水害・土砂災害からの避難のあり方について、中央防災会議のワーキンググループの報告が12月26日に出されています。その報告書の最後のページに、「国民の皆さんへ」というアピールがあります。安倍首相が議長をやられている中央防災会議の国としての意見です。そこに

は「国民の皆さんへ、行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。」とはっきりと書かれてあります。「避難するかしないか、最後はあなたの判断です。」とまで言及しています。これは現実問題として、広域災害がどんどん起こってくる時代にあっては、行政がすべてを十分に救援することは現実的に難しいという前提で私たちはどう行動していくかが問われています。私たちはそれに応えていく必要があります。これが、今、我々の直面している防災の現状であるということも確認をしておきたい。先ほどの総合計画審議会の説明でも、最後に防災が出てきましたが、国連では、2000年に「防災の主流化」という言葉をきちんと提言しています。各政府が、各自治体が、予算を投入するときの最大級の目的は、まず防災である、命を守ることであるというテーゼです。

次の大雨の時期までもう5カ月を切っています。昨年、あれだけの悲しい出来事が起こって、じゃあ私たちはあと5カ月の間に、広島市でいえば23人の命を失ってしまったあの災害と同じ災害が起こったときに、犠牲者を半分以下に出来るでしょうか。それだけ対応はやっていきますかという、実はまだやれていない。もう時間がないということは、しっかりと確認をしておかなきゃいけないと思っています。

ところで、社会がすべてをシステム化したり制度化したり効率化するという事は、つまり管理社会になるということだというのは言うまでもありません。1945年までの町内会・自治会の役割を見ていてもそうです。管理社会にしないコミュニティーのあり方ということは、もちろんこれからも厳しく問われていくし、一方で、小さなコミュニティーで人間がお互いに協調しないで、どうやって大きな問題を解決できるのかというテーマも、（共助というカタチで）与えられています。

さて、最後のテーマです。わたしたちは、次の世代のためにどんなまちを残すことができるのでしょうか。これもまた、常に問われていることです。先ほどからずっと申し上げていますが、ポストモダンが現代で、その次の未来は何だろうか、我々はその方向性すら決められずに立ち止まっています。どんなカタチで次の世代に、このまちを残していくかという、当然ですが、一つは、さらなる安全性の向上です。立地の適正化であったり、移転促進法にであったりしますが、いずれにしても、本質的に住めるべきまち、住むまちのあり方を定義していかなければいけないでしょう。この国では、約5,800万戸の家のうち、800万戸は空き家だと言われています。その空き家の整理方向すらまだ十分に見つけられていない状況にあって、これらの課題を次代の若者たちに任せてしまってよいのでしょうか。もう一つは、地域コミュニティーにおける高齢者の生きがいややりがいの問題ですが、これからの約20年間どうやって生きるのか、この災害の世紀をどうやって生きぬくか、というテーマも、ぐずぐずと他者依存の行政批判や不平不満を口にするだけで老いていくのはやり切れません。

市担当者による先ほどの説明の中で、「高齢化」、「地域コミュニティー」、「多様化」、「子ども」、「外国人」、「自然災害」という6つの大きなテーマがありました。このうち「子ども」、「外国人」、「自然災害」というテーマは、10年前にはありませんでした。これらをキーワードとして、私たちはどういうまちづくりを提案していくかが問われます。私たちが認識をしていかなければならないのは、広島市の、安佐南区の特色を見つけ出すという前提の前に、社会全体、地球全体がどんな形で変化をしていくか、それを基本軸として、わたしたちの地域がどんな独自性を出せるのかということです。6つのテーマ、インデックスは、日本の、

世界のどこに持って行ってもあまり大きく変わりません。このテーマに基づく外延的な事象や事物の提示だったら、ある意味で簡単ですが、その中身について、しっかりとわがこととして議論をお願いしたと思っています。

これで私の話は終わらせていただきたいと思います。お時間を頂戴してありがとうございました。

○ 事務局

松井座長、安佐南区の今後のまちづくりについて大変参考になるお話、どうもありがとうございました。

それでは、松井座長に進行をお返しいたします。

〔開会〕

○ 松井座長

閉会の時間も迫っておりますので、事務局から連絡事項があればお願いをしたいと思います。

○ 事務局

2つ連絡事項がございます。1つ目は、次回の懇談会の開催についてですが、次回は5月の開催を予定しております。具体的な日程につきましては、後日座長と御相談の上、改めて皆様と日程調整をさせていただきます。

2つ目は、委員の交代についてです。新年度に際し、皆様の団体におかれましても、現在の役職を次の方にバトンタッチする委員の方もいらっしゃると思われまふ。役職の交代に合わせて、本懇談会の委員も交代される場合は、委員交代手続の様式をお渡しいたしますので、事務局までお申し出ください。

事務局からの連絡事項は以上です。

○ 松井座長

これをもって閉会とさせていただきます。